

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場会の開始時に6つの理念を読み上げ、その理念に沿っているか、職員で話し合い意志の統一を図っている。	利用者一人ひとりを大切に、最後までその人らしい生活ができるようにとの考えのもと、ケアマニュアルに副って6つの理念を作り月2回の職場会議開始時に全員で唱和している。職員の中に理念にそぐわない言動が見られた時には、管理者から「利用者様の尊厳は」と問いかけ、職員自ら振り返りの機会を持つようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩などに出掛け地域の人達と挨拶を交わしている。選挙の際は、希望者は投票に行く事もある。	開設から1年経過したところで地域との関わりはこれからである。区長や高齢者クラブの会長に色々とお願いをしている段階である。児童や生徒の職場体験学習の受け入れ準備はできており、学校関係にも申し出もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生・介護相談員の方からの相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告はしているが、ご意見を頂く事がなかなか出来ない。	3ヶ月ごと、第一水曜日に開催している。メンバーは家族代表、区長、消防団長、民生委員、老人クラブ会長、市職員で構成されている。出席率は80～90%と高い。ホームからの利用状況や活動の報告を行っている。委員も不慣れであるため意見交換にまでは到っていないが運営上の色々な協力などをお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者福祉課・広域連合・包括センターに出向きお願いや相談にのって頂いている。	利用代金の未払いの件や医療が必要となりホームで生活できなくなった方の次の居場所等を地域包括支援センターや市役所の担当者に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を抑えることなく、見守りし寄り添うケアに取り組んでいる。	ホームは複合施設の二階にあり交通量の多い道路に面しているため、階段出入り口などは施錠している。外出傾向のある方には職員が付き添って出かけている。マニュアルに基づいて振り返りをしたり、ホーム会議の中で学習をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	近隣の施設にて虐待があった事で、勉強会を開き職員一人ひとり意見を聞きどう接していくかを考える場を設けた。		

こころのひろばグループホーム・じいじのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者任せになって、利用者で活用したほうが良い方への説明が出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をゆとり取って丁寧に説明している。看取りについても契約の際現時点でご本人・ご家族の意向をお聞きした上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に月末にお手紙で利用者の近況をお知らせしたり、ご家族が面会の際にコミュニケーションをとり、何でも言って頂ける様な雰囲気作り心にかけている。	ほとんどの利用者は自分の意見を言葉で伝えることができるが、直接伝えられない方については表情や仕草で判断している。家族の面会は週に1回位の方が多く、毎日見える方も数家族おられ、家族の要望などは面会時にお伺いしている。毎月担当者が手書きのお便りを書いて利用者一人ひとりの近況を家族にお伝えし、意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心かけているが、把握出来ていない可能性がある。管理者が定期的に面接をしている。	月2回の職場会議、月1回のホーム全体会議を開催し、提案や意見を出し合っている。職場全体の年間目標と個人の年間目標を出し合い、目標達成に向け努力している。管理者は定期的に職員と面接を行い、要望や改善点などを業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロアリーダーがシフト作成の際にスタッフの休み希望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講演会への参加希望を募っているが、積極的に研修会・講演会に参加しているのは、決まったスタッフになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や、民医連の介護委員会を、通じて意見交換や交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とのコミュニケーションの中で、お話をしながら困って居る事を聞いている。職場会で意見交換をし情報の共有をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めている物を理解し、グループホームとして、どのような対応が出来るか話し合いをする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の段階で本人にあった場所を見つけて頂く自施設の見学をして頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食・夕食を利用者と共につくり・盛り付け・配膳・片づけをスタッフと一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診など基本的には、家族に行って頂き、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・お友達が来所された時には、居室にて話が出来様に配慮している。お友達とお友達の家で食事されることもある。	半数近くの利用者には年、数回友人が訪ねてきており、居室でお茶を飲みながら話している。携帯電話を持っている方もおり、時々、電話をしている。家族とお墓参りに行く方もいる。友人あてに暑中見舞いのハガキを書く利用者もおり訪問調査時に一人の利用者から見せていただくことができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをそている。		

こころのひろばグループホーム・じいじのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ該当事例なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動を止めることなく、したいようにして頂いたり「どうしたの?」と声掛けし話を伺うようにしている。	在宅時の様子や利用当初のアセスメントを大切にし、利用者主体の行動を見守っている。集団の中で言葉の少ない方には1対1で関われる時に意向を伺うようにしている。利用者のふと漏らした思いなどは介護記録に記載し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで把握したことを日頃の会話の中で聞き出したり、時には、ひもときシートを使い把握する事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表・排泄記録・当日記録で1日の流れを把握し、食事作りなど、その方の出来る力で出来る事やして頂く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの「出来る・出来ない表」用いて今出来る事出来なくなったことを担当者が記入し、スタッフが把握しそれに基づき計画を作成している。	担当制をとっており職員は1~3名の利用者を受け持っている。「できる・できない表」を用いて変化したことを担当者が記録し、スタッフ間で共有後、計画作成担当者が介護計画を作成している。モニタリングは職場会議で2週間ごとに行っている。アセスメントは変化のあった時に行っている。	現状をより把握するためにモニタリング回数を増やすことを期待したい。また、より介護の質の向上につながるようアセスメントを定期的実施されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルにはバイタル排泄・食事量の記入。当日記録には、関わったスタッフが、利用者が発した言葉などを主に記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に通院は、家族に行って頂くようになっているが、急な場合、勿論どうしても無理な場合はスタッフが対応している。		

こころのひろばグループホーム・じいじのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる催し物には、参加しているが、地域資源に対する理解にかける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしている。	かかりつけ医への受診同行は基本的に家族が行っている。ほとんどの利用者は複合施設こころのひろば内にあるクリニックで受診している。看護師は常駐していないが近隣の訪問看護ステーションと24時間対応の契約をしており、健康チェックのため週2回の来訪を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を共有出来る様スタッフはなるべく見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、早い段階から家族の今のお気持ちを聞き同意書を書いて頂いている。	重度化した場合の指針に基づいて、利用契約時に本人や家族の意向を伺い同意書をいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場会で勉強会を開いたり、全員ではないが日赤で行われた救急救命法の勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者自身作成の防災頭巾を玄関に吊るしている。法人の防災倉庫に災害時必要な物をそろえている。	年2回防災訓練を計画している。昨年は複合施設こころのひろば全体の訓練に職員が参加した。ホーム入り口に利用者手作りの防災頭巾が一人ひとり用に掛けられている。頭巾の中に下着やオムツ等、最小限の必需品が詰められている。	具体的に行動できるように防災マニュアルを更に充実されることを期待したい。職員個々に机上シュミレーションをし、自分の行動をイメージすること、その各自のイメージを出し合い全体の行動へと結びつけられることを期待したい。

こころのひろばグループホーム・じいじのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームの理念にある様にまずは利用者の～したいを受け止める声掛けをしている。	ホームとしての6つの基本理念の一つに「利用者様一人ひとりのプライドやプライバシーを守り個人を尊重します」と掲げ、実践に努めている。管理者が講師になり、ホーム全体会議の中で勉強会を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば言い合いになったとしても、スタッフが直ぐ介入するのではなく、見守る環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、スタッフサイドの業務になっていないか？都度話し合い、利用者一人ひとりのケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った物を着て頂ける様、タンスの中の洋服など、衣替えを利用者と一緒に行っている。訪問美容に来て頂き、本人の希望でカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは、一人ひとりの出来る事に、対応している。ベランダで作った野菜をスタッフと一緒に収穫し料理し皆で食べている。	すべての利用者が自分の出来ることで、食事作りに参加している。とろみ食の方、ペースト食の方がそれぞれ若干ずつおり、他の方は普通食を召し上がっている。法人本部に入っている栄養士が献立を作り、業者から毎食分の献立と食材が届けられている。ベランダにはミニトマトなどの夏野菜の鉢植えが並んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量は個人ファイルに記入している。水分1日合計1.5L~2.0Lを目標に声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕の食事後洗面台にて口腔ケアを行っている。就寝前に義歯は預り月・木にポリドントをし清潔保持している。		

こころのひろばグループホーム・じいじのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつける事で個々の排泄パターンの把握や毎日の排便の有無の把握が出来ている。尿意のない方は、定時誘導しトイレでの排泄に心がけています。	約半数の方は自立している。夜間のみオムツやリハビリパンツにしている方もいる。排泄チェック表で時間帯や排せつの有無を確認し、職員も時間を見計らい時々声がけをし、トイレへと誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、個々の排便状態に応じて、お茶の寒天ゼリーにオリゴ糖をかけたリ、食事量の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	普段の入浴は職員の多い時に行っている。交流センターの温泉に行く事は楽しんで頂いている。	職員の出勤数が多い午後の時間帯に入浴時間を組み込んでいる。最低週2回は入浴している。拒否する方にはホーム内を散歩しながら浴室に誘導している。見守りや一部介助を必要とする方がほとんどで、全介助の方はいない。複合施設1階の交流センターの温泉を時々利用し、気持ちが良いと利用者からも好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方5時以降は、不穏にならない環境作り心掛け良眠につなげている。静かにゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はスタッフ2~3人で確認している。誤薬がない様に管理している。個人ファイルにお薬表をはさみスタッフ全員で把握するように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	持てる力を発揮してもらえる様出来そうな仕事をお願いしている。役に立てて良かったという満足感を感じて頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて行事を決めブドウ狩りなどに出かけている。個々で散歩や買い物・ドライブに出かけている。	年間計画の中で季節毎の外出行事を計画している。毎週ドライブを企画し参加していただいている。個別には利用者と職員が1対1で近くの高島公園へ散歩することが多い。ホームのある複合施設裏の川沿いの道は、歩行者専用なので散歩に好都合で毎日利用している。	

こころのひろばグループホーム・じいじのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、家族から預り買い物の時持参するようにしている。自分で支払いの出来る方にはして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は家族宛てに出している。電話の使用はあまりないが、携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダで野菜作りをし季節を感じて頂いている。狭いスペースを歩かないようテーブル・ソファの配置を工夫している。	リビングには三つのテーブルが適度な空間を保ちつつ整然と並んでおり、2~3人ずつで食事ができるようになっている。音に敏感な方がおられるため、全体に静かで落ち着いた雰囲気である。空調も適切に使用されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置き仲間同士で談話出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で生活して頂けるよう入所の際自宅で使用していたものを持ってきて頂き、安心して暮らして頂いている。	整理ダンス2台が備えつけてあり、衣類等を入れている。常に見て確認できるように衣装掛けを使っている方もいる。職員手作りの誕生日カードやメッセージカードが飾られている居室も見られた。自宅からお位牌を持ってこられている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂等は図柄で示し、居室には自身で書いた表札を着け判るようにした。		